

## 欧州委員長人事とドイツ政局

～16日に欧州議会で委員長承認投票～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

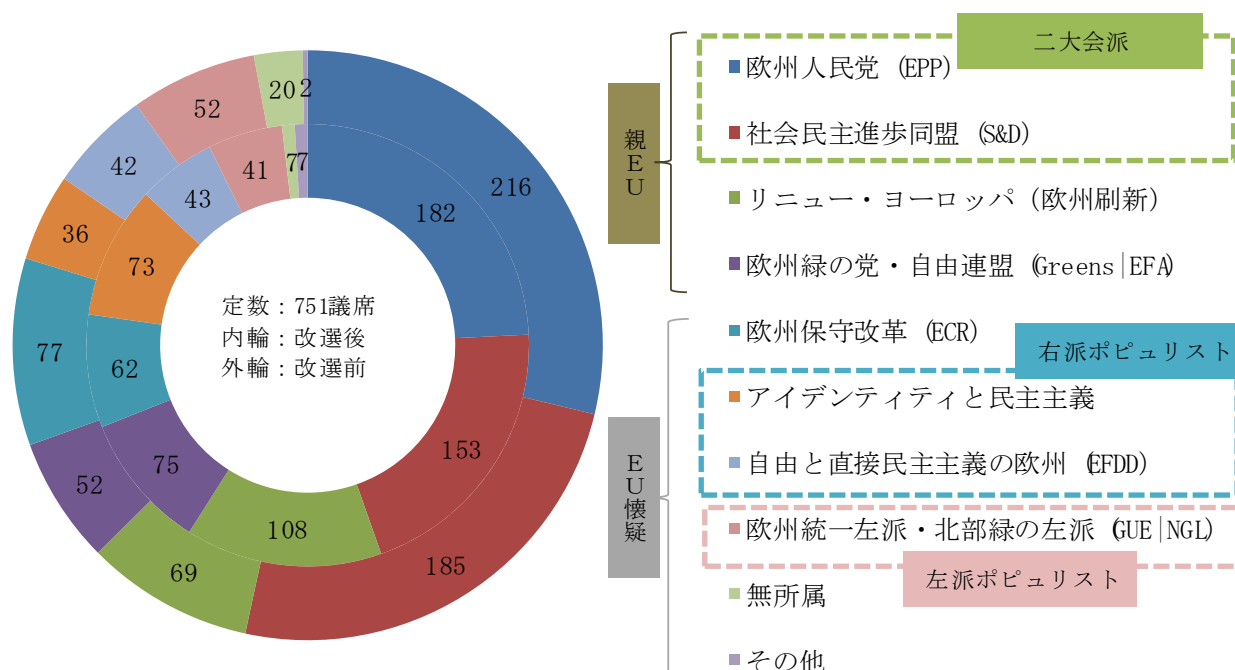
- ◇ 欧州議会は16日、欧州委員会の委員長候補に指名されたフォンデアライエン氏の承認投票を行う。親EU会派に所属する欧州議会議員の間でも、今後のEU運営を巡る同氏の説明が不十分との声や、選出手続きが民主的でないと批判の声が聞かれる。万が一、議会の承認が得られない場合、EU人事は一からやり直しとなる。また、薄氷で承認された場合、今後のEU運営に不安が残る。
- ◇ フォンデアライエン氏が委員長に選出された場合、空いたドイツの閣僚ポストに再び女性が指名されるのか、その女性がポスト・メルケルの最有力候補であるクランプ＝カレンバウアー氏となるかにも注目が集まる。同氏は度重なる失言や選挙戦での低調なパフォーマンスで評価を落としている。閣僚経験のない同氏の閣僚登用が将来の首相禅譲に向けた準備とみるか、後継レースからの脱落とみるかは評価が分かれるところだ。

欧州委員会の次期委員長候補に指名されたドイツのウルズラ・フォンデアライエン国防相の承認投票が16日に欧州議会でされる。承認には定数751の議会の絶対過半数（376の賛成票）が必要。フォンデアライエン氏は各会派に今後のEU運営に関する自身の方針を説明し、承認獲得に向けた理解を求めている。同氏が所属する中道右派の最大会派・欧州人民党（EPP）の保有議席は182にとどまり、委員長就任には親EU派を中心とした別の会派の協力が不可欠（図表1）。既に75議席を持つ環境会派・欧州緑の党・自由連名（Greens|ELA）、41議席を持つ左派ポピュリスト会派・欧州統一左派・北部緑の左派（GUE|NGL）が同氏を支持しないことを表明している。153議席を持つ中道左派の第二会派・社会民主進歩同盟（S&D）内では、同会派の筆頭候補でオランダのティーマンズ氏の委員長就任の機会を奪われたことに憤慨する声が聞かれ、16議席を持つドイツ社会民主党（SPD）が自国出身のフォンデアライエン氏を信任しない可能性を示唆している。108議席を持つリベラル系第三会派・リニュー・ヨーロッパ（欧州刷新）の中にも、同氏を信任するかの判断を今のところ留保している議員がいる。

今回の委員長候補の選出では、議会の各会派が選任した委員長候補（筆頭候補）に首脳間の意見統一が出来る人物がいなかった。そのため、ドイツやフランスなどの主要国首脳が密室での協議を続け、他のEU高官人事とのバランスに配慮し、ドイツ出身、最大会派出身、国政やEUレベルでの閣僚経験者、女性の条件を満たすフォンデアライエン氏が急浮上した（フランスのマクロン大統領が提案したとされる）。欧州議会内には、同氏の個人的な資質以前の問題として、選出手続きが民主的でないと批判も多い。また、各会派の筆頭候補が欧州議会選挙に先駆けて、自身の目指すEU運営の公約を発表、選挙キャンペーンやテレビ討論会で政策を訴えてきたのに対し、数時間の質疑応答ではフォンデアライエン氏のEU運営の立場が十分に分からないとの不満も聞かれる。

万が一、同氏が過半数の承認を得られない場合、EU各国首脳で構成される欧州理事会は30日以内に別の候補者を指名し、改めて欧州議会での承認作業が必要となる。フォンデアライエン氏は加盟国、所属会派、性別など絶妙なバランスの下で首脳間で合意された人物のため、他のEU人事も含めて一からやり直す必要が出てくる。別のEU高官ポストを確約されたフランス（ECB総裁）、ベルギー（欧州理事会常任議長）、スペイン（EU外務・安全保障政策上級委員）、イタリア（欧州議会議長）の主要政党の多くは、フォンデアライエン氏を信任するとみられる。承認されたとしても、ぎりぎりの過半数では今後5年間のEU運営に不安が残る。十分な信任票が得られる見込みがない場合、16日の投票を延期すべきとの声も一部に浮上している。

（図表1）欧州議会選挙の会派別獲得議席



注：1）リニュー・ヨーロッパ（欧州刷新）は欧州自由民主同盟（ALDE）から会派名変更

2）アイデンティティと民主主義は欧州国家と自由（ENF）から会派名変更

出所：欧州議会資料より第一生命経済研究所が作成

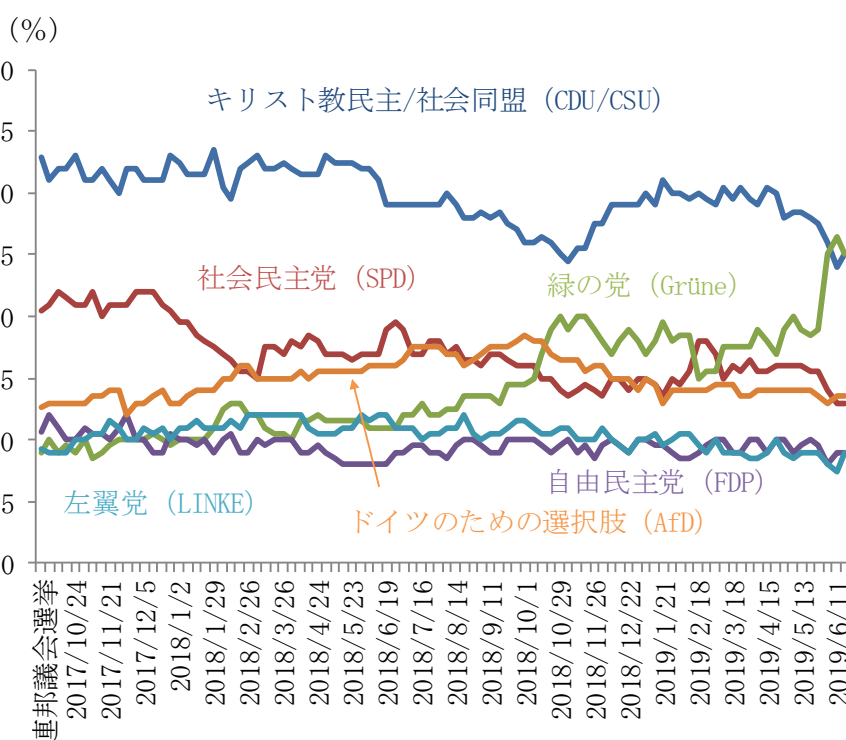
フォンデアライエン氏の委員長就任はドイツ政局の今後を占ううえでも注目される。同氏が所属するキリスト教民主・社会同盟（CDU/CSU）は、CSU出身の欧州議会議員で、最大会派の筆頭候補であったウェーバー氏の擁立を断念する事態となったものの、CDU出身のフォンデアライエン氏を承認することで一致している。他方、連立を組むSPDは連立協定に反するとして同氏の承認を拒否している。その結果、同氏を委員長候補に指名した欧州理事会の投票では、出身国のドイツが投票を棄権することとなった。

既に連立内の不協和音が高まっているが、このままSPDが同氏の承認を拒否した場合も、そのこと自体が連立崩壊につながる決定打とはならない。最近の世論調査でSPDの支持が一段と低迷

している（図表2）。連立解消で議会の解散・総選挙となれば、SPDは大幅に議席を失う恐れがある。そのため、このまま連立にとどまるべきか、連立内で埋没するかを避けるべきかの判断が下せずにいる。秋に予定される3つの州議会選挙（9月1日にブランデンブルクとザクセン、10月27日にテューリンゲン）の結果を踏まえ、連立継続の是非が判断されよう。CDUもまた緑の党に第一党の座を脅かされており、当面は連立を維持しようとする可能性が高い。

フォンデアライエン氏が欧州委員会の委員長に転出する場合、空いた国防相ポストが誰の手に渡るかも、ポスト・メルケルを占うヒントとなるかもしれない。メルケル氏が首相就任前に務めた党幹事長から、昨年12月にCDUの党首に就任したクランプ＝カレンバウアー氏は、今のところポスト・メルケルの最有力候補。だが、党首就任後の度重なる失言や選挙戦での低調なパフォーマンスで党首就任後に評価を落としている（詳細は5月29日付けレポート「[ポスト・メルケルに暗雲](#)」を参照されたい）。連立内に秋風が吹くなか、次期連邦議会選挙での禅譲を睨めば、国政レベルで閣僚経験のないクランプ＝カレンバウアー氏に経験を積ませることも考えられる。現政権では首相を含めた16閣僚のうち7閣僚を女性が占めている。女性の司法・消費者保護相が欧州議会選挙に出馬するため辞任した際には別の女性議員が後継者に指名され、女性閣僚の割合が維持された。史上初の女性国防相となったフォンデアライエン氏だが、国防相時代の国内での評判は芳しくない。後継者に女性を指名するか、内閣改造で別の閣僚を横滑りさせ、空いたポストに女性を指名するのか、その女性がクランプ＝カレンバウアー氏となるかにも注目したい。

（図表2）ドイツ連邦議会選挙の支持率調査



出所：INSA資料より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。